

強力なメンバーに支えられて完遂！

朝日連峰 荒川中俣沢

大田原

【日時】 2008年8月22日(金)～24日(日)

【メンバー】L栗原、矢野、大田原

今年こそどうしても行きたかった飯豊朝日の谷。お盆のリベンジと意気込むが、天気予報はまたも悪化を告げている。もしかしたら増水してないかも、もしかしたら雨降らないかも・・・とりあえず朝日へ向かうことにする。

大石橋に着くと、寒い！のでアブがない!!いやいやそこではなく、水は濁ってないし、そんなに増えていない!!少なくとも1日半は天気がもちそうなので、入渓決定。支度をしているとショベルカーが目の前を通り過ぎて、沢を渡渉していった。びっくりだったが、少し先で工事をしているらしい。吊橋を渡って少しの間、重機に先導されて歩く。3つ目の吊橋は細くてちょっと怖かった。静かに佇むブナを横目に1時間20分、大玉沢出合から沢へ入る。



【ショベルカーに導かれて】

まずは河原を行くが、水量多めと思われる流れを渡渉するのは少々緊張する。矢野さんはあっさりさくさく渡っていくが、女性二人は一箇所スクラムを組んだ。蛇引沢出合先の大釜では大きな岩魚が群れて泳いでいるのが見えたそうだが、私は先ばかり気になって気付かなかった。手嶋さんらは歩けたというナベクラ沢出合先の淵は、今回は普通に泳がなければならぬ水量。雪溪の存在を示唆するように、水が冷たい。大滞沢を過ぎてゴルジュが始まると、豪快に6条ほどに流れを分ける小滝が現れる。まるで巨大な



【跳び越えた方が約一名】

熊が爪で岩盤を引っ掻いた痕のようだ。滝沢の上品な滝を右手に見送り、美しい岩盤の上を進むと、ぱっくり大きな落ち込みに行く手を阻まれる。栗原さんは左手からへつり気味に取り付いている。と、矢野さんが2、3歩後へ下がったかと思うと一気に跳び越えてしまった。大きな荷物を背負ったまま、よくそんなことができますね～。その後、正面の緑の大岩壁に滝を見ると、いよいよスノーブリッジ登場。ここは上から越えられた。間もなく左手に毛無沢が出合う。屈指の険谷と呼ばれるこの奥には雪溪がかかっているのが見える。みんな無言だったが、胸中は人それぞれだったことだろう。さて、本流の方はいよいよ曲滝を迎える。右岸のリッジを上ったところから矢野さんがロープを

引いてくれた。藪をトラバースして出た滝の上は太陽の光を優しく反射する白い岩盤が

きれいなところだ。ウキウキしてきたので休憩ついでに釜に潜ってみる。久々に潜ると息が全然続かなくなっていることに気付いてショック。水中は意外と濁っていて見通しは利かなかった。再びザックを背負って歩き始めると、二つ目のスノーブリッジが現れる。ここは下から。枝沢から入る光で中は明るく、アーチ状の高天井が美しく一瞬見とれてしまう。って、ここがどんな危険な場所か分かってるのか!はっと我に返る。出口の這い上がり一人だけ苦労しつつも無事通過できた。次なるは綾滝。名前に違わず美しいが、水量が多く豪快な印象も受ける。ここは栗原さんが周到にアブミを取り出し、右壁から人工で越えた。時間は15:20。滝上では落ち口を渡らなくてはならなかったの



【綾滝の登攀】

で、ラストを回収しながら登ってきた矢野さんにそのままロープを引いてもらう。その後通過不能の落ち込みが続くゴルジュになったため、右岸の壁を矢野さんがリードして灌木帯を目指す。明らかに悪そうで、下から見守る方もハラハラしたが、ロープは順調に伸びていった。後続も空身になって登ったが、私はメインロープをゴボウしても登れず、荷揚げのために途中まで降りてきた矢野さんにお助け紐を貰ってダブルゴボウで何とか這い上がった。まるで荷物が4個あるみたいで(いや、荷物以下か)、本当に申し訳ない。こんな悪いところ登るの矢野さんくらいだろ～と思っていたが、途中で先人の痕跡(リングボルト)を見つけた。また、下に栗原さんがいるのに落石も多く起こしてしまい、ほとんど自分が情けなくなる。あとで聞くと栗原さんはすべての落石を紙一重でかわしていたらしい。ほんとすみません。3人とも灌木まで来ると、もう17:00近い。そのままトラバースに入るが、栗原さんが途中で平らな場所を見つけ、そこに泊まることになった。私にとってそこは下手に動き回れない怖い場所で、お二人に整地してもらったところにタープやツェルトを張るお手伝いくらいしかできなかった。すぐ先で本流に下りられたそうで、矢野さんが水も汲んできてくれた。お二人に集めてもらった薪に火を点け、狭い谷から満天の星空を眺めて夜は更けた。



【5つ目のスノーブリッジをくぐる】

翌朝は5:10に出発。水を汲んでもらったところへ降り立つと、すぐに西俣沢が出合う。出合の滝より先が全然見えないが、ここも険谷と名高いらしい。そして斜めに滑り込むナメ床を回りこむと、前方に大滝を見る。暗く狭い3段の落ち込みに、左壁から舞い落ちる枝滝の水が少しの光を注いでいる。ここはスパイクを装着し、左岸から高巻く。矢野さんが絶妙のルートファインディングで低めにトラバースして、懸垂不要でピタリと滝上に出た。沢が開けると、東俣沢出合となる。まだ

時間にも余裕があるので、予定通り中俣沢へ。左に枝沢を分け、連続する小滝を越えていく。CS5mは栗原さんが左から微妙なところを危なげなく上がり、お助けをくれる。正面に大岩壁を臨みながら6~8m程度の滝をいくつか越え、沢が右へ曲がるとスノーブリッジ第3弾。不安定な感じでしかも出口の光が見えない。左のルンゼから高巻く。トップに行く矢野さんができるだけ低めのラインを探りながら（私は後を追っているだけにまったく追いつけない・・・）、またもやピタリと雪溪の終わりの滝の落ち口に降り立った。そこから上もまた雪溪が埋めていたが、容易に上を歩ける。雪溪から目指す右俣(?)の右岸へ移った。そこから2、3の小滝を越えると、5つ目のスノーブリッジ。下をくぐる。息の詰まるような思いで抜けるとちょっと微妙な滝があり、お助け紐で確保してもらいながら登る。そのすぐ上もまた微妙。矢野さんが空身になって右壁から登り、



【楽には登れない滝が続く】

後続はゴボウで登る。その後の滑る小滝もお助け紐をもらって登る。最後の滝、斜めの10m滝は栗原さんが右壁にロープを引く。これまた微妙な感じのところを見事に突破。すごい。私はといえば、またもやゴボウ登り。うーん、役立たずだけどゴボウの達人にはなれるかも。やがて沢はアザミ群落の中に消え、13:10登山道に出た。昼前から小雨が降りだしており、風もあるためか非常に寒かった。本日中の下山も可能だったが、小屋へ立ち寄ると再び外へ出る気力を失ってしまい、泊まることにした。

悪天にも拘らず小屋はなかなかの盛況だった。翌朝は縦走者たちに合わせて早起きし、5:30には小屋を出る。小雨振る中、見覚えのある大玉沢出合付近まで来ると、本流は増水していた。わずかな好天にタイミングよく逆行できたと思うとうれしくなってきた、足手まといであ

る私を連れてグイグイ突破してくれた強力なお二人に感謝の念が込められた。

【グレード】5級下

【行程】

8/22 大石橋(7:55)~大玉沢出合(9:15/30)~大滞出合(11:10)~曲滝下(12:55)~綾滝下(14:40)~BP(17:10)

8/23 BP(5:10)~東俣沢出合(6:40/50)~中俣沢右俣出合(8:55)~登山道(13:10)~大朝日小屋(13:40)

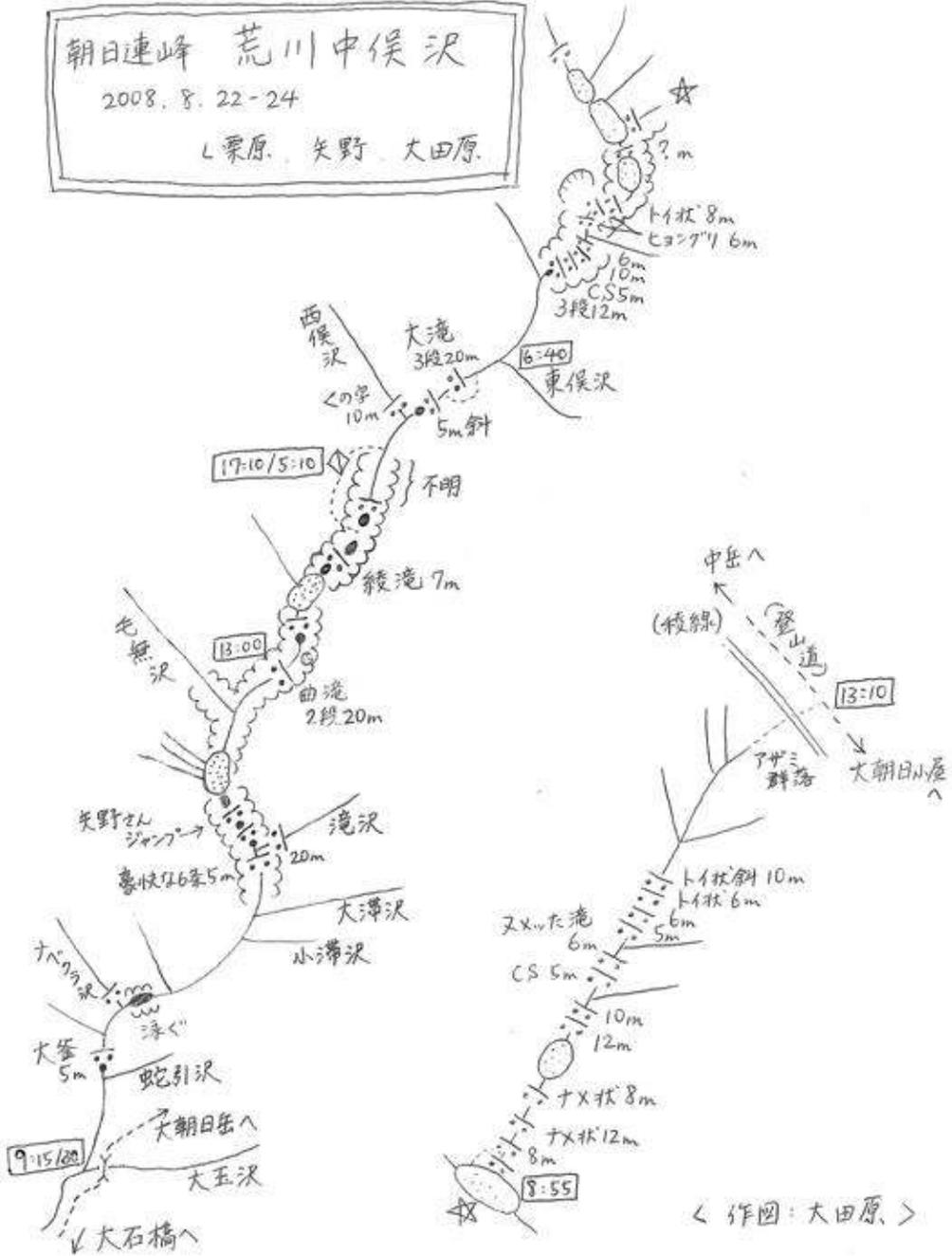
8/24 大朝日小屋(5:30)~大石橋(9:35)

【地図】徳網、羽前葉山、大朝日岳



【大朝日岳山頂にて】

朝日連峰 荒川中俣沢
 2008. 8. 22-24
 L 栗原 矢野 大田原



< 作図: 大田原 >